



【あべ さちこ さん】桂木

●手話通訳者として講演会や耳の不自由な方の外出時の手話通訳を行う。今年、手話通訳の資格ではもっとも難関の「手話通訳士」に合格し、一層の活躍が期待されている。

より分かりやすい手話通訳
を心がけています！

市

内で開催される講演会やシンポジウムで手話通訳が行われることがあります。手話通訳をする方は市に手話通訳者として登録し、主催者からの依頼に応じて派遣されます。阿部さんは、手話通訳者の一人として講演会や耳の不自由な方が外出するときなどの手話通訳活動を行っています。

手話通訳との出会いは15年ほど前。「何かはじめようと考えていたところ、手話講習会の開催を知り、『これだ！』とひらめいて参加しました。その後、手話のサークルに加入し活動してみても、手話通訳者が足りないことを知りました。『50歳になるまでに手話通訳者になる』と目標を掲げ

て勉強したところ、目標より早く市の手話通訳者に登録できました」といきさつを振り返ります。

今回取得した厚生労働大臣認定の「手話通訳士」は、合格率21パーセントの難関で、千歳では21年ぶり2人目の取得です。

一念発起して取得に取り組み、挑戦をはじめた5年、周りの方の支援もあり取得できたそうです。

手話通訳は奥が深く、満足する通訳はなかなかできないとのこと。

「手話通訳には話の内容を瞬時に理解できる広く深い知識が求められます。上手に通訳できず落ち込むこともありますが、あまり悩まずにつぎはもう少し上手にやろうと思うこと

にしています。前向きに考えることがこれまで手話通訳を続けることができた秘訣です」と明るく語ります。

「耳の不自由な方から『ありがとう』と言われると励みになります。これからもより分かりやすい手話通訳者を目指して勉強します。また、長く手話通訳に関わってもらえるよう若い方にも声をかけ手話通訳者を育てていきたい」という阿部さん。

「手話ができなくても、駅やスーパーなどで困っている耳の不自由な方がいれば手助けする気持ちを少しでも持つてもらおうとありがたいですね」とやさしいまなざしで話してくれました。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE

阿部



SACHIKO
ABE

幸子

さん